

高校生が海外取材！

第10回 インドネシア 社会インフラプロジェクト

参加した高校生リポーター

後列 左から	田原 大樹さん (慶應義塾 高等学校3年)	吉本 竜さん (江戸川学園 取手高等学校2年)	澤田 勇輝さん (徳島県立 城東高等学校1年)	島津 佑輔さん (長岡工業 高等専門学校1年)
前列 左から	椎名 真与さん (千葉県立幕張総合 高等学校1年)	佐々木 香菜江さん (岩手県立 盛岡南高等学校3年)	池松 彩果さん (東京都立 国際高等学校3年)	町元 恵瑠さん (福岡県立 小倉高等学校2年)

以上のメンバーが多数の応募者から選ばれました



事業を解説する伊勢田代表



暮らしに必要な事業で国の発展に貢献

三菱商事の幅広い事業

資源からコンビニまで多様

ジャカルタ郊外のスカルノハツタ空港に到着した高校生たちは、初めて訪れたインドネシアの空気を胸いっぱい吸い込み、バスで三菱商事ジャカルタ駐在事務所へ向かった。空港からの道のりでは、ジャカルタ名物「の大渋滞の手荒い出迎えを受けたが、高校生たちは長旅の疲れも見せず、伊勢田純一・インドネシア総代表などから、三菱商事が手がける事業内容

三菱商事が海外で展開するプロジェクト現場を高校生が訪問・取材し、リポートする「海外プロジェクト探検隊」。第10回の今回は、日本各地から集まった高校生8人が8月20日から5日間、アジアの中で成長を続けているインドネシアを訪れた。三菱商事がかかわっている事業の中から、地熱発電所や自動車産業、コンビニ事業を見学し、インドネシアの社会インフラ事情について知識を深めた。

天然資源を活用 発展支えるインフラ事業



～世界の仕事現場を見に行こう！～

世界有数の地熱発電所

燃料費・CO₂排出ゼロで注目

翌日、ジャカルタからバスで約5時間のワヤン・ウィンドウ地熱発電所を訪れた。標高約1800m、茶畑に囲まれたのどかな山あいにも、もくもくと天然の蒸気が噴き上がる。三菱商事が出資するスターエネジー社が運営する、世界有数の地熱発電所だ。現在の発電容量23万kW、増を、最大40万kWまで拡張する予定だ。

高校生たちは、三菱商事の東南アジアでの電力事業を手がけ

る「ダイヤモンド・ジェネレーター・アジア」の小牧広宣・ジャカルタ事務所長の説明を受けながら、発電所内を見学。現地職員に英語で次々と質問す

るなど、燃料費と二酸化炭素(CO₂)排出量がゼロで、クリーンな発電所として注目される地熱発電に高い関心を示していた。東日本大震災で被災し、発電事業に興味を持ったという岩手県立盛岡南高校3年の佐々木香菜江さんは「環境面で周辺への配慮もしっかりなされていた。

予想していたより大規模な発電所だ。働いている方もフレンドリーだった」と笑顔を見せた。慶應義塾高校3年の田原大樹さんは「燃料費ゼロで、半永久的に使える点がすごい。日本では、地元の理解などハードルは高そうだが、もっと活用すべき」と話していた。



▲小牧さん(左端)の案内で地熱発電所内を見学。巨大なプラントを見上げ、仕事のスケールの大きさに感動



地熱発電 井戸を掘削し、地下深くのマグマで熱せられた高温の蒸気を取り出してタービンを回す発電方法。火山国の米国やインドネシア、日本などが豊富な地熱資源を持つ。二酸化炭素を排出しないため、環境への負荷が少ない。天候に左右されず、安定的に発電できることから、再生可能エネルギーの中核として普及が期待されている。

生活の基盤「足」と「食」

消費者の信頼得て発展中

安いインドネシアでは、機械化を抑えた方がコストが低いことを知った。従業員が日本で研修を受けるなど、技術向上への取り組みも充実していた」と感慨深げだった。

続いて、三菱自動車及び三菱ふそうの乗用車とトラックなどの輸入・販売総代理店KTBを訪ねた。社長が「これだけ若い方たちの訪問を受けたのは初めて」と歓迎した。KTBはインドネシア中に販売ネットワークを巡らせ、きめ細やかなアフターサービス体制を築いたこ



KRMの和田さん(右端)が製造ラインを解説



林さん(左端)とローソン店内を視察

とで消費者の信頼を勝ち得てきた。特にトラックでは圧倒的なシェアを誇る。KTB本社に併設する模擬ショールームは、ディーラーの質向上のため、研修の場として使われている。接客やショールームのディスプレイ方法などについて学ぶ様子を見

現地生徒の熱意に触発

音楽など国境越えて話題共有

ジャカルタの高校「ラプスクール・ケイバラン」も訪れ、交流を深めた。同校生徒によるインドネシア伝統の踊りで出迎えられ、教室や図書館など校舎内を見学。体育館に集まった数百人の生徒を前に、緊張した面持ちだったが、日本の人気アイドルグループ「AKB48」の曲に合わせてダンスを披露すると、数百人の生徒は総立ちとな

り、サビの部分と一緒に歌うなど盛り上がった。東京都立国際高校3年の池松彩果さんは「交流する前は不安だったが、とても温かく迎えてくれた。いつかまた会いたい。英語やインドネシアについても勉強を続けたい」と目を輝かせた。



思い出のショットは笑顔！



現地の高校生も飛び入り参加！人気アイドルの曲と一緒に踊った

次の現場は、経済発展に伴って盛り上がる消費の最前線だ。ローソン海外事業部の林雄一郎長の案内のもと、ジャカルタを中心に63店舗を展開するローソンの店舗を訪れた。広い店内にはイトインコーナーが設けられ、店内で調理された「弁当」

を食べる大学生らでにぎわっていた。福岡県立小倉高校2年の町元恵瑠さんは「おにぎりやおでんなど、品ぞろえが豊富で、現地の小売店と差別化がされている。食べるスペースもあって利用しやすいだった」と驚いていた。

り上がったのがうれしく、もっと英語を勉強しようと思った」と笑顔で話し、国際交流の楽しさをかみしめていた。

海外プロジェクト探検隊

三菱商事の海外事業や現地の文化を体験

■「海外プロジェクト探検隊」とは

このプロジェクトは、一般から公募した高校生をリポーターとして海外に派遣し、現地で体験した内容をヨミウリ・オンラインで発表してもらうシリーズ企画。今回の「インドネシア 社会インフラプロジェクト」は10回目となる。現地では、三菱商事が展開しているプロジェクトの現場を訪問するほか、現地の学生との国際交流や生活文化など、さまざまなプログラムを体験。未来の日本を担う高校生たちに、総合商社の仕事や異文化への理解を促し、今後社会で活躍するための糧となることを目指している。

■体験ツアー報告会

11月9日、第10回インドネシア体験ツアーの報告会が東京・丸の内三菱商事本社で開催された。高校生たちは体験したプログラムをリポートし、インドネシアで展開する三菱商事のプロジェクトを中心に、現地で学んだことや感じたことなどを発表した。打ち解けた雰囲気の中、三菱商事の社員と高校生たちが、ツアーの思い出や発表したリポートの感想などを語り合った。



緊張の面持ちで各自工夫をこらしたプレゼンテーションで、体験の臨場感が伝わる報告を心がけた

高校生のレポートは
公式サイトで公開中！

<http://www.tanken-tai.jp>